

常用漢字、29年ぶりに改訂される

開倫塾
林 明夫

1. 2000年から3年ごとに行われている。OECDのPISA(15歳時の国際学力標準)調査の2009年度の結果が今週の火曜日に発表になり、中国の上海が読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーで1位を独占して話題となっています。
2. 漢字は、日本語の読解力の上で欠かすことができませんから、今回29年ぶりに改定された常用漢字も、少しずつでもよいからコツコツと身につけ、日常生活で大いに役立てましょう。
3. 国語に限らず学校の教科書に出ていることばで意味がよくわからないものは、辞書を身近において必ず調べ、その意味をノートにメモしておきましょう。特に、漢字は国語辞典といっしょに漢和辞典も使うことをお勧めします。
4. 漢字には音と訓の読み方があるので、その漢字が含まれる語句や文にふさわしい読み方を声に出して読む練習(音読練習)を何回か繰り返し、その都度覚えることも大切です。
5. よく読めるようになった漢字は、書き順に注意しながら正確に書けるようになるまで何回も何回もよく練習(書き取り練習)をしましょう。
6. ちょっと見て書くのが難しそうな常用漢字も、書き取り練習をすると意外に書けるようになりますよ。
7. 1つ1つの常用漢字には、なぜその漢字ができたのか生い立ちと深い意味があります。その意味を十分理解した上で音読練習と書き取り練習をし、一語一語正確に身につければ、読解力の基礎を築くことができます。
8. 本や新聞を読んでいて知らない漢字や難しそうな漢字が出てきたら、辞書を引いて意味や読み方を調べ、ノートにそれをメモし、音読練習や書き取り練習を繰り返すと、語彙(ごい)がどんどん増えて更に日本語の読解能力が高まりますよ。
9. 漢字検定や言語力検定、ニュース検定なども大いに活用して、上海や香港、シンガポール、韓国などのアジアの高学力の国々の生徒に負けない読解力を身につけましょう。
10. 漢字は中国から日本に入ったものですが、長い歴史を経て日本の言語になり、日本の文化、日本人のアイデンティティそのものにまでなったものです。学校時代に漢字の基礎を身につけた上で、社会に出てからも漢字の勉強を積み重ね、豊かな言語生活を送りたいものです。2136の常用漢字は、そのよい目安として活用しましょう。